



## 岩崎元郎と歩く高御位山縦走

日 時：5月14日(金) 参加者数:14名

参加者：L:砂川 阿蘇・上田・大谷・切貫・澤田(卓)・中嶋  
西村(知)・関・松下・三木・森川・和田・渡邊(俊)



### 岩崎元郎さんと歩く高御位山

5月14日、午前9時に鹿島神社大鳥居前に集合。大勢の登山者が集まっていて、高御位山遊会の人達はいずこと、きよろきよろしているバス停の近くで円陣を組み、ストレッチをしておられた。さすがに我が山遊会の人達だと思いました。

岩崎元郎さんのご挨拶の後、参加者全員で軽くストレッチをして、いざ出発。



皆さんが、歩き方を学ぼうと岩崎さんのまわりに集まったので、小柄な岩崎さんが見えなくなってしまいました。ゆっくり歩くと言われてたが、途中写真撮影をしたり

### 開

サインをしたりしていても、頂上付近では、私たちに追いついて来られた。私たちは休憩もせず、頂上まで歩いたのに、やはり、基準が違うのですかね。

頂上に着くと、松下さんと上田さんが、待機しておられて、おいしいコーヒーを頂き、ほっと一息。岩崎さんはサイン会やら山の替え歌を披露され、お食事をする暇がなかったのではと思いました。

下山の時も、下山の仕方を学ぼうと岩崎さんを待っていましたが、サイン会などで遅れて下りて来られた。まわりに沢山の人達がおられたので、私は遅れて一人で別のグループの人達のお話を聞きながら下りてきました。

いつもの下山道とは違い、北山神社に下りてきました。ストレッチをした後、岩崎さんの本の紹介があって解散。

いつもより長く歩いたのと、腰痛の後の久しぶりの山行だったので、とても充実した一日でした。

## 初めての山歩き教室 実技

日 時：5月16日(日) 参加者21名 (内 教室生・10名)

参加者：L:砂川 SL:渡邊

大谷・須増・関山・中嶋・西村(知)・長谷川(易)・平山・待場・森川

行動記録：市の池10:05～長尾登山口10:30～鉄塔10:47 10:03～高尾位山11:20 12:00～  
鷹巣ノ山12:54 13:05～鉄塔13:33 13:40～百間岩13:48～鹿島神社14:00～  
市の池14:13

## 教室生 実技サポートに参加して

昨年は、私自身が教室生でした。教室生は歩行レベルにも大きくバラツキがあります。(昨年も実技時、高御位山に登れない方がおられ、その後、山遊会に来られていません。)

今回はお手伝いのつもり?と、自主トレのつもりで参加して、2度目の実技サポーターです。コースは市の池～長尾～高御位山～鷹の巣～百間岩～鹿島神社～市の池のルートで、教室生10名に、サポーターが11名と心強い。9時～9時45分まで、会長からの事前講義がありました。(4/13の岩崎元郎氏の講演内容・山での歩き方・ストックの扱い方等々)

## 氷ノ山 すずこ採り

日 時:5月22日(土)～23日(日) 参加者14名

参加者:L:砂川 SL:山本

足立(光)・足立(美)・井上・大谷・金島・狩集

北川・切貫・塩津・平山・森川・渡邊(俊)

行動記録:5/22 加古川駅8:38～朝来SA9:32～9:41～スーパー豊田10:34～10:52～氷ノ山中央(大段ヶ原)駅11:30 12:15～氷ノ山避難小屋12:49 12:54～神大ヒュッテ14:33(泊)

5/23 神大ヒュッテ12:05～避難小屋 通過12:25～大段ヶ原12:55～「うなわ」昼食13:45～万灯の湯15:40 16:40～和田山インター15:15～市川SA17:45～宝殿18:15～加古川18:35



## 森川

その後ストレッチをして10時、市の池を出発しました。私といえば4時間ほどの山行中、他のサポーターとの雑談が主になり、教室生の顔色が悪くなってはいないか、歩調に乱れが出ていないか、時々チラッと横目で見ている程度で申し訳ありません。

暑い1日でしたが、2時頃、全員無事に市の池に戻って来ました。西脇から受講されている方が、欠席されていましたが如何されたのかな。全員が、山遊会メンバーに加入されて、一緒に楽しい山行が出来ればいいなあと思っています。

## 今年も氷ノ山に

特別の理由は無いけれど、私にとって春の氷ノ山は毎年登ってみたい山。卯の花がちらほら咲く頃、冬をじっと耐えぬき一気に芽をだす山菜、お日さまに向かって成長するすずこ(竹の子)、まばゆいほどにキラキラと光るブナの木の間葉っぱを見たいと、今年もやっぱり参加することにした。

情報と物が氾濫する現代、人の心にごみが溜まるという。毎年お世話になる「神大ヒュッテ」での一泊は、私には心のリセットとも言える。

薪ストーブを囲み、ほの暗い山小屋での長夜を仲間と過ごす。採りたてのすずこをストーブで焼き、皮をむいて熱々を頬ばる。

ただそれだけのことなのに、毎年訪れたくなる

## 金島

魅力は、氷ノ山山行と言うよりも山小屋での火を焚くことのできる楽しみなのかも分からない。

大段ヶ平に車を置き、ザックに食料その他、夜の宴会のためにアルコール等も分担して登り始める。4年前くらい前までは、東尾根からの登りだったと記憶しているが…。登山口のブナ林を抜けると、すぐに根まがり竹林になる。すずこ採りの人たちとの挨拶も忙しく、道端に採り残されたすずこを片手で手折りしながら登って行くこと1時間、赤茶けたトタン葺きの三角屋根「神大ヒュッテ」が見えてくる。

南側に張り出たベランダは、広くて山小屋の雰囲気最高! 遠くに見る山並みを1目で追えるように広がっている。

私たちがお世話になる山小屋の広さは、約10畳ほど、真ん中に薪ストーブがあり、ぐるりに板間がある。山を愛し、山小屋を愛する人たちによって手入れされ守られている様子が窺える。

到着して、まず水が出ていなければ男性達が水源地へ行き、落ち葉を除き、ホースから水を通す。電気・ガス施設は無い。

小屋の中は暗いが、蔀戸のような雨戸を押し上げると、スーと光が入ってきて静かな山小屋に迎えられる。

以前は、囲炉裏があり薪をいぶした匂いが蔓延していたのを思い出すが、今は快適なストーブが設置されている。よくここまで鉄の塊みたいなストーブを人の力だけで持ち上げたものだと感心する。

夕方までのひと時を、すずこ採りに熱中なる者、夕餉の支度にかかる者など、それぞれを自由に過ごす。私はストーブにおどろ木を入れ、新聞を丸めて火をつける。

パチパチと音をたてて燃えつけ始めれば、後は太い木を互い違いに重ね燃やしていく。

むかし私が子供だった頃、風呂沸しは子供の役目だったから、上手に火を燃やしていく方法は、今も覚えている。

赤々と燃えるストーブを黙って飽きもせず見ていたら、山本さんも同じ経験の持ち主と聞く。そして「人々の情愛が薄れてしまったのは、火を中心に暮らすことを止めた為かも知れない。」と、ぽつりと言う。

うまく木を燃やすことの楽しさ知ったら、誰でもこの山小屋を訪れたいと思うこと間違いないと思う。

備えの薪は小屋番さんによって用意されているが、木の質によって燃えにくいものもあり、なかなか難しく面白い。

軽快な包丁の音とともに夕餉の支度にかかるKさん、氷ノ山のすずこと新たまねぎと合わせて「酢豚」を連想されたとか。

今夜の夕食が待ち遠しい。2畳足らずの台所が甘酸っぱい香りで一杯になった頃、竹やぶの中に入っていた12名の仲間も小屋に戻り、すずこ採集の成果を見せ合う。

男性たちもこのすずこ採りには夢中になるらし

い。私は、ちゃっかりWさんからすずこを分けていただく。



茹でたすずこ・下味をつけ片栗粉で揚げた豚肉・人参・ピーマンをすし酢で味付け「酢豚」の出来上がり、他にすずこのじか焼き、シーチキンとのホイル蒸し等々、すずこのオンパレードが食卓に並ぶ。

小屋の中はストーブで、ほどよく温まり、本日の宴会の始まり。「ウインナーは1人2個、きゅうり、トマトは人数分ですよ。」となると、普段どうでもよいはずの野菜も、つい手が出てしまうのも山ならではの食事かなと思う。

にぎやかな時間は飲むほどに酔うほどに、人の心を解かしていくようだ。

出発の時、Kさんから「きょう誕生日を迎える人のためにサプライズを用意しようね。」と、あらかじめ打ち明けられていた。

途中での買い物に「そっとケーキを忘れずに…」と頼まれたものの、山里近くのスーパーでは素敵なケーキが無く、やっとイチゴケーキを2個だけ見つけた。あとはロールケーキ2本しか買うことができない。

しかし暗い台所で、何か作業しているKさんのアイデアを見て驚いた。

ステンレス製の鍋の蓋の裏を銀盆に見なし、中心に長いローソクを立て、イチゴケーキ2個を並べ、周りにカットしたロールケーキを形よく飾り、誰かが持ってきたリンゴ1個とオレンジ1個を櫛飾りに配して、見事なデコレーションケーキが完成した。

小屋の中で見たその情景は、今でも忘れられない豪華そのものの出来上がりだった。

*Happy Birthday*の主は、砂川会長様の2日早い、71歳の誕生日だった。

小さな花束も贈呈し、全員でハッピー・バースデーの歌を大合唱。

そして山本さんの吹くハーモニカに合わせ、しっかりと昔懐かしい叙情歌を歌い、夜も更け、

ストーブは火を絶やすことはなく燃え、やがて三々五々、2階で眠る人、ストーブの周りでシュラフに入って休む人など…。

何時頃だろう？真っ暗な天井にパラパラと大きな雨音、今年もまた雨の氷ノ山か…と夢うつつ。何年前だったかな…晴れた夜空に、きらきら瞬くピンポン玉大の北斗七星を、寒さも忘れて仰ぎ見たのは…ここに来るたびに思い出す。来年は晴れるかな…周りの安らかな寝息に誘われて、私もいつしか夢の中…。

大人になった私たちの心のどこかに、昔から伝わる春の山菜摘み、そして火を囲むこと、私

にとって何時までも憧れてやまないものの一つではないかと思う。



## 初めての山歩き教室 実技

日 時:5月29日(日) 参加者数21名(教室生・7名)

参加者:L:砂川 上田・内海・大谷・切貫・澤田(卓)・澤田(律)・須増・西村(知)  
平山・待場・森川・渡邊(健)・渡邊(俊)

行動記録:ウエルネスパーク駐車場9:00-9:35~平荘湖口9:45~弁財天神社10:12-10:25  
~取水口ポンプ10:30-10:40~アクア交流館10:45~相の山11:10-11:35~飯盛山12:00-12:30~相の山12:47~観察小屋13:00~ウエルネス駐車場13:20

### 平荘湖一周と飯盛山登山

#### ~教室生へのサポート参加から学んだこと~

今回の山行目的は、「シルバコンパスの使い方」であった。どちらかと言えば、サポート参加というより、私自身が教室生同様初心のつもりで参加した。

4グループに分かれ行動する。私たちの指導者は西村さん、教室生2名と計4名である。まず、シルバコンパスは、目的地に達するための道具であること。

機能として、「進行方向の決定と確認」、  
「地図の方向合わせ」が出来ることの説明を受けてから出発する。

ウエルネス加古川から平荘湖の出発地点で、最初の進行方法の決定に臨む。これはスムーズに合わせることができ“やれやれ”と思った。次は平荘湖一周しながら飯盛山を見て、目標となる高圧線が3ヶ所通っていることや、少年の家などの建物、登山口近く尾根沿いの道が連なっているのを確認する。また道の分岐に来たら、進行方向の決定と同時に、地図からコンパスをはずし、コンパスで北を確かめ、進行方向を再確認することを教えられた。

#### 澤田

教室生の2人は、シルバコンパスの使い方(進行方向の決定)を要領よく覚え、私の方がもたもたする場面があった。

もたもたの原因は、地図を南向きしているのに、シルバコンパスの北矢印を、南に合わせたままでもたもたの、お粗末な間違いである。

「初めはよく知っている山で、実際に歩いて、現場の地形と地形図を対照しながら、現に見える地形が、地形図でどう表現されているのかを体感することが、読図学習によい」ことも学んだ。

初めて、往復ともシルバコンパスを使った山行ができ、貴重な体験となった。忘れないよう繰り返し練習したい。

飯盛山からの下り、平荘湖全景が見える地点で、教室生の2人が、「この近くを歩くのに、こんなきれいな景色を見るのは初めて!」「家族を連れてきてやりたい!」など感激されているようだった。

自然が人に与える大きな力を、改めて感じた山行であった。